

未

野



「ゆめのあじ」羽田えりな（日本画コース 205J033）

木野通信

Kino Press No.48

Kyoto Seika University

京都精華大学

木野通信 第48号 2009年7月15日発行
 京都精華大学入試広報部広報課
 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
 TEL 075-702-5197

「絵画」を見る

学長◎ 島本 洸 Shimamoto Kan

いま、京都にきているフェルメールの《レースを編む女》という作品について書きたいと思う。21世紀に入って、日本でフェルメールを見る機会が格段と増えたので、今回の作品来日は異例ではないのだが（去年は七点もやってきた）、それでもフェルメールを見る経験は特別なものである。それは、フェルメールを情報として見るのではなく、そこに「絵画」というものを見ることだからだ。

字数が限られているので、17世紀のオランダ・デルフトの画家フェルメールについてのさまざまな興味深いエピソードについて書くことはしない。言いたいことは、ただ、フェルメールの追求したものが「絵画」だったということについてである。「絵画」などとカギカッコをつけた表記でもっといぶっているわけではない。あえてそうしているのは、画面に絵具でイメージや形象が描かれていれば絵画ということではない、ということ言うためである。「絵画」と言っているのは、西洋近代に生まれた視覚の形而上学に属する術（わざ）のことである。この術はまた、光のそれでもある。光を介在させることによって、世界、あるいは他者を視覚的に構造化しながら自己を発見しようという術だ。このことはあまり理解されていない。「絵画」をすることが、したがって世界を見ることも、だんだん難しくなっているからである。ITに指導されるポスト近代＝現代が、世界を構造化することではなく、構造の受容を優先させているからかもしれない。

といっても、自己が世界＝他者と結びついたものであるかぎり、「絵画」をすること、世界を見ることは、いまでも重要な人間のひとつの営みであるはずなのだ。フェルメールの作品は、そうした営みのもっとも優れた例であるだけでなく、その営みが美しさと不可分にあることも語っている。絵が好きな若い人たちにはぜひ見てもらいたいと思う。

通

信

1 新しい「本館」が完成

News

お披露目をかねて、
40周年記念式典と同窓会を開催

老 朽化にともない建替工事を行っていた本館が、この3月に完成した。5階建て、延べ約6400平方メートル。100～160人収容の講義室や語学専用実習室ができ、事務局も集約した。

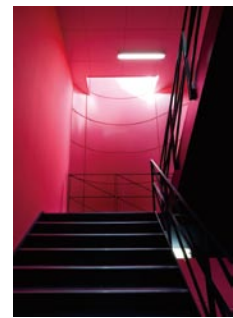
設計はデザイン学部建築学科の鈴木隆之先生が担当。5階までの吹き抜けや、「赤」「青」の2つの階段、屋上庭園などの個性的なデザインは、思わず天を見上げ、のぼって確かめたくなる構造に。そこには「学生たちに、大学で一生覚めないほどの強い夢をもってもらいたい」という先生の思いが込められている。

この本館のお披露目をかね、

4月12日には創立40周年記念式典を開催。2008年4月から一年かけて行ってきた記念事業の集大成を飾るイベントとなった。

式には、元理事長や元教職員はもちろん門川大作・京都市長ら387名が出席。40年を振り返る催しも多数行われ、開学当初から続くアセンブリーアワー講演会等で登壇した世界的著名人らの映像も上映された。

また同日、天ヶ池周辺では同窓会・木野会による「ホームカミング」が開催され、全国から約500人が集まった。在学生が阿波踊りを披露したり、花火師の卒業生が盛大な花火をあげたりと、こちらも大賑わいだった。



2 2009年度入学式を開式

News

デザイン学部、マンガ学部が完成年次を迎える

4 月1日、2009年度京都精華大学入学式が国立京都国際会館イベントホールにて行われた。芸術・デザイン・マンガ・人文の4学部、そして芸術研究科・人文学研究科の大学院あわせて1043名が入学。2006年にスタートしたデザイン学部

とマンガ学部は、この4月をもって4学年がそろい、完成年次を迎えた。

また、入学式後には「学長賞」の2008年度受賞者も発表された。授与式では、受賞の喜びを3組がそれぞれ語った。



[2008年度学長賞]

さそうあきら
(マンガ学部准教授)
第12回文化庁メディア芸術祭マンガ部門優秀賞を受賞。また、作品の映画化などの功績により。

湯郷温泉活性化プロジェクトチーム
(マンガ学科と建築学科の学生共同チーム)
岡山県・湯郷地区で「鉄道模型ジオラマ館+ストーリーマンガ」を制作し、温泉街の活性化に大きく貢献した功績により。

塩田千春
(現代美術家/美術学部 洋画専攻卒)
第58回芸術選奨 文部科学大臣新人賞 美術部門における受賞などの功績により。

3 デザイン研究科・マンガ研究科、新設へ

News

2010年度より4研究科体制に

芸術研究科が、2010年度再編に向けて動き出している。

芸術研究科の各研究分野をさらに深めることを目的に、「デザイン研究科」「マンガ研究科」の開設が予定されている。6月26日付で文部科学省に「デザイン研究科」「マンガ研究科」設置の届出書類を提出。これにより、新研究科設置に関する手続きはすべて完了した。

新たな研究科の詳細、募集要項については、順次大学Webサイトにて発表される予定。

問い合わせは、企画室企画課(075-702-5201)まで。

4 News

京大との連携プロジェクト続報

マンガ本制作に続き、宇宙とアートプロジェクトが始動

昨年京都大学と交わした連携協定により、新たな共同事業がスタートしている。

最初の共同事業として取り組んだ京都大学広報マンガは、京大が研究成果をインターネットで公開する「京都大学学術情報リポジトリ」にて、昨年の閲覧数第1位に輝いた。これに引き続き動いているのが、「宇宙とアート」プロジェクトだ。

これは、京大の「宇宙総合学

研究ユニット」と本学の表現活動との融合により、新しい文化の創造を目指すもの。手始めに、宇宙総合学研究ユニットのパンフレットを芸術研究科の院生、デザイン学部生が制作した。今後も、両大学の教員が宇宙をキーワードに講義を行う「リレー講義」や、サイエンスカフェへの参画、両学の学生・教員が共同で行うアート作品制作や商品開発を予定している。



5 News

さそうあきら先生が受賞

文化庁メディア芸術祭・マンガ部門にて優秀賞を受賞

独 創的な作風でファンを魅了しているマンガ学部のさそうあきら先生が、『マエストロ』で第12回文化庁メディア芸術祭のマンガ部門で優秀賞を受賞した。

受賞作『マエストロ』は、解散した交響楽団が、突如現れた変わり者の老人指揮者によって導かれ、いきいきとよみがえっていくストーリー。とくに音の描写が高く評価されている。

さらに2008年は『コドモのコードモ』『俺たちに明日はないッス』の2作が映画化されるという活躍ぶり。この功績により、本学の学長賞をも受賞した。

学長賞授与式にて先生は、「大



2008年度学長賞授与式にて

学に来るまでは、20年間ずっと部屋に一人ぼっちでマンガを描いてきました。でも、大学で200人300人という学生と向き合い、20年間言葉になっていなかったものが、方法論として積み上がってきた。教えることで教わってきた3年間でした」と学生らに感謝を述べた。

6 News

世界的マンガ家・メビウス氏が来学

村田蓮爾氏、りんたろう氏×大友克洋氏とのトークセッションも

5 月、フランスのマンガ家・メビウス氏が来学した。氏は、SFマンガ「アルザック」等のほか、映画「エイリアン」「トロン」等のコンセプトデザインを務める作家。世界中のクリエイターから敬愛され、宮崎駿氏、谷口ジロー氏、松本大洋氏らも彼にオマージュを捧げている。

今回、島本学長自ら交渉のため渡仏。氏が快諾し、本学と京都国際マンガミュージアムでの講演会・企画展が実現した。

本学での講演会は、メビウス氏の講演と、氏から大きな影響を受けたりんたろう氏（マンガ学部客員教授／アニメーション監督）と大友克洋氏（マンガ家・

映画監督）によるトークの二部構成。司会は、マンガ学部の竹熊健太郎先生、津堅信之先生が担当した。

津堅先生から、日本から受けた影響について尋ねられたメビウス氏は、「1960年代には、多くの作家がクロサワやオズの作品にショックを受けた。それは、自分にとって豊かなものをもたらされました」と語り、80年代初期に手塚治虫氏に招かれ来日した際、大友氏のマンガに衝撃を受け、帰国後は仕事机のそばに置いて過ごしたことを

明かした。

二部では、りん氏と大友氏がメビウスの絵を初めて見たときの衝撃や作品の魅力について語った。その後、メビウス氏も加わり、りん氏らが手がけた劇場アニメ『メトロポリス』を「アニメーション史に残る大傑作だ」と賞賛。新しい表現を追求

し、最前線で長く活躍し続ける作家同士が、ともに影響を与え合いたたえ合う姿を、学生たちは真剣に見つめていた。

また、京都国際マンガミュージアムでは、メビウス氏がイラストレーターの村田蓮爾氏と「線」について語るイベントも開催された。



左から大友氏、りん氏、竹熊氏、津堅氏


本学での講演会は、600人収容の教室がいっぱいになった




Report 2009年度新任教職員


2009年4月から本学に新任した教職員の方々です。

芸術学部


 **青木 秀明**
日本画コース 講師

 **宇野 茂男**
日本画コース 准教授


 **佐藤 一進**
洋画コース 講師


 **鈴木 純子**
テキスタイルコース 講師


 **金子 潤**
素材表現学科 客員教授


 **畠山 直哉**
メディア造形学科 客員教授

デザイン学部


 **石川 九楊**
ビジュアルデザイン学科 教授


 **伊藤 ガビン**
ビジュアルデザイン学科 客員教授


 **黒川 雅之**
プロダクトデザイン学科 客員教授


 **永島 譲二**
プロダクトデザイン学科 客員教授


マンガ学部

 **明田川 進**
アニメーションコース 教授

 **小泉 真理子**
マンガプロデュースコース 講師

 **Jaqueline Berndt**
マンガ学科 教授

 **竹熊 健太郎**
マンガプロデュースコース 教授

 **津堅 信之**
アニメーションコース 准教授


人文学部 総合人文学科

 **是澤 範三**
講師

 **中西 宏次**
教授

 **名越 康文**
教授

 **平井 愛**
講師


 **真下 美弥子**
教授


 **安田 昌弘**
准教授


 **山田 創平**
講師


 **池田 浩士**
客員教授

共通教育センター

 **西塔 由貴子**
語学教育部門 講師


 **西田 亜希子**
導入教育部門 講師


 **森 ひろし**
日本語リテラシー教育部門 准教授


 **森 由美子**
語学教育部門 講師


事務局 職員

 **大羽 勇憲**
教務部 教務課

 **勝島 啓介**
就職部 就職課

 **下嶋 亜紀**
教学推進センター 教学推進課

 **新村 純司**
入試広報部 入試課

 **野田 陽子**
教務部 教務課

Report 2 2008年度退職教職員

以下の方々が2008年度で退職されました。

斎藤 博
(芸術学部 洋画コース)
渡辺 信喜
(芸術学部 日本画コース)
麻田 脩二
(芸術学部 テキスタイルコース)
武田 雄二
(デザイン学部 建築コース)
吉富 康夫
(マンガ学部 カートゥーンコース)
荒岡 興太郎
(人文学部 社会メディア学科)

井上 雅人
(人文学部 文化表現学科)
門間 都喜郎
(人文学部 文化表現学科)
フィリップ・ルイト
(人文学部 文化表現学科)
鷲尾 圭司
(人文学部 環境社会学科)
池尾 靖志
(教育推進センター 導入教育部門)
手嶋 英貴
(教育推進センター 日本語リテラシー部門)

Report 3 2008年度大学人事体制

2009年度の大学役職者は以下のとおり。

理事長
赤坂 博
学長
島本 洸
専務理事・常務理事(総務担当)
上々手 良夫
常務理事・副学長(教学担当)
葉山 勉
常務理事・副学長(学生担当)
坪内 成晃
常務理事(企画担当)・企画室長
石田 涼
理事
杉本 貞彦
理事
佐藤 茂雄
理事
尾池 和夫
理事
安村 幸駿
監事
崎間 昌一郎
監事
位ノ花 俊明
監事
堂山 道生

共通教育センター長(新任)
高橋 伸一
学長室長(新任)
北脇 学
総務部長
有田 好人
教学推進センター長・社会連携センター長(兼任・新任)
葉山 勉
教学推進センター事務部長(新任)
福岡 正藏
教務部長(新任)
栗巢 満
教務部事務部長(新任)
武田 恵司
情報館長(兼任)
島本 洸
学生部長(新任)
雲丹亀 利彦
学生部事務部長(新任)
高橋 勇
就職部長(新任)
力士 勝
入学部長(新任)
市村 富美夫
入試広報部長(新任)
関口 正春
全学研究センター長(兼任)
斎藤 光

京都国際マンガミュージアム館長
養老 孟司
国際マンガ研究センター長
牧野 圭一
京都国際マンガミュージアム事務局長
上田 修三

芸術学部長(新任)
武藏 篤彦
デザイン学部長
松谷 昌順
マンガ学部長
竹宮 恵子
人文学部長(新任)
堤 邦彦
大学院芸術研究科長(新任)
河村 源三
大学院人文学研究科長
斎藤 光

4 Report 2008年度決算および、2009年度予算について

2008年度決算について

2008年度の帰属収入は学生数が増加したことにより、過去最高の約72億円でした。このうち学生納付金は80%を占めています。

この中から本館建て替え工事、その他学内施設の諸改修工事等で約15億8000万円の施設関係支出を行いました。このうち、新本館の建築資金に対して、私学事業団より約6億1000万円の融資を受けました。また、新本館建築にともなう機器備品の購入、情報館の第三次整備事業、その他経常的な図書・備品充実等で約2億円の設備関係支出を行いました。これらの通常の基本金組入額その他、学校法人インターナショナル学園との合併に関わる基本金組入額を合わせて、当年度の大学の基本財産取得に関わる基本金組入額は約10億4000万円となりました。

消費支出（人件費・経費等）は約68億2000万円となり、2008年度の消費収支は約6億6000万円の支出超過となりました。この結果、累積消費支出超過額はおよそ37億3000万円となりました。

支払資金（現金・預金）は、前年比約3億9000万円減の約36億6000万円となりました。

資産が増加した一方、借入金、累積支出超過額も増え、自己資金率は0.9%減少して、78.5%となりました。

2009年度予算について

2009年度は春秋館・風光館のトイレ改修や、完成年度を迎えるデザイン学部、マンガ学部の施設設備・備品等の購入を行います。また奨学金の拡充や2010年度に開設を予定しているデザイン研究科・マンガ研究科の広報を行います。その結果、単年度の消費収支は基本財産取得に関わる基本金組入等を含み1億5000万円程度の支出超過予算となっています。

収入については、文部科学省の補助金獲得をはじめとして、受託事業等によって外部資金を導入し増収を図り、また組織の改編により教育研究活動の活性化と連携を図ります。

支払資金（現金・預金）は、2008年度に比べて約4億5000万増の約41億2000万円となっています。

2010年度以降は単年度収支をできるだけ早期に黒字回復し、教育活動の充実にともなう財政の安定化をはかっていきます。

貸借対照表

2009（平成21）年 3月31日現在

（単位：千円）

資産の部	本年度末	前年度末	増減
固定資産	24,055,230	22,914,128	1,141,102
有形固定資産	19,816,296	18,787,501	1,028,795
土地	4,228,370	4,068,855	159,515
建物	12,693,363	11,754,271	939,091
構築物	565,333	619,980	△ 54,647
教育研究用機器備品	1,258,595	1,289,566	△ 30,972
その他の機器備品	47,738	47,411	327
図書	1,020,024	1,002,515	17,509
車輛	2,874	4,902	△ 2,028
その他の固定資産	4,238,934	4,126,627	112,307
電話加入権	3,631	3,566	65
有価証券	3,076,705	2,978,894	97,811
長期貸付金	350,294	534,080	△ 183,785
退職給付引当特定資産	647,666	448,950	198,716
第3号基本金引当資産	150,000	150,000	0
保証金	10,637	11,137	△ 500
流動資産	4,222,410	4,586,134	△ 363,724
現金預金	3,664,138	4,049,887	△ 385,749
未収入金	296,979	269,053	27,926
貯蔵品	7,919	6,112	1,807
短期貸付金	22,193	18,403	3,790
有価証券	202,802	201,758	1,045
立替金	4,897	10,066	△ 5,168
前払金	23,462	30,837	△ 7,374
仮払金	20	20	0
資産の部合計	28,277,641	27,500,262	777,379

負債の部	本年度末	前年度末	増減
固定負債	3,932,368	3,528,438	403,930
長期借入金	3,046,220	2,682,700	363,520
退職給付引当金	886,148	845,738	40,410
流動負債	2,160,913	2,170,733	△ 9,820
短期借入金	248,480	216,490	31,990
未払金	95,284	79,395	15,889
前受金	1,603,746	1,677,003	△ 73,257
預り金	213,403	197,845	15,558
負債の部合計	6,093,280	5,699,170	394,110

基本金の部	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	25,297,037	24,274,667	1,022,370
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	150,000	150,000	0
第4号基本金	467,000	446,000	21,000
基本金の部合計	25,914,037	24,870,667	1,043,370

消費収支差額の部	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費支出超過額	3,729,676	3,069,574	△ 660,102
消費収支差額の部合計	△ 3,729,676	△ 3,069,574	△ 660,102
科目	本年度末	前年度末	増減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	28,277,641	27,500,262	777,379

2008（平成20）年度 2008年4月1日から2009年3月31日まで

資金収支計算書

（単位：千円）

収入の部	金額
学生生徒等納付金収入	5,797,635
手数料収入	70,360
寄付金収入	65,224
補助金収入	700,399
資産運用収入	81,918
資産売却収入	501,242
事業収入	206,354
雑収入	248,699
借入金等収入	612,000
前受金収入	1,603,746
その他の収入	781,507
資金収入調整勘定	△ 1,977,151
前年度繰越支払資金	4,049,887
収入の部合計	12,741,820
支出の部	金額
人件費支出	3,467,131
教育研究経費支出	1,461,096
管理経費支出	822,261
借入金等利息支出	74,565
借入金等返済支出	216,490
施設関係支出	1,578,207
設備関係支出	196,906
資産運用支出	1,197,575
その他の支出	170,456
資金支出調整勘定	△ 107,005
次年度繰越支払資金	3,664,138
支出の部合計	12,741,820

消費収支計算書

（単位：千円）

消費収入の部	金額
学生生徒等納付金	5,797,635
手数料	70,360
寄付金	99,210
補助金	700,399
資産運用収入	81,918
資産売却差額	500
事業収入	206,354
雑収入	248,699
帰属収入合計	7,205,075
基本金組入額合計	△ 1,043,370
消費収入の部合計	6,161,704
消費支出の部	金額
人件費	3,507,541
教育研究経費	2,158,568
管理経費	886,641
借入金等利息	74,565
資産処分差額	181,498
徴収不能額	12,994
消費支出の部合計	6,821,806
当年度消費支出超過額	660,102
前年度繰越消費支出超過額	3,069,574
翌年度繰越消費支出超過額	3,729,676

2009（平成21）年度 2009年4月1日から2010年3月31日まで

資金収支予算書

（単位：千円）

収入の部	金額
学生生徒等納付金収入	5,878,945
手数料収入	68,150
寄付金収入	94,000
補助金収入	578,350
資産運用収入	80,753
資産売却収入	498,683
事業収入	225,288
雑収入	28,808
前受金収入	1,572,000
その他の収入	389,896
資金収入調整勘定	△ 1,708,746
前年度繰越支払資金	3,664,138
収入の部合計	11,370,266
支出の部	金額
人件費支出	3,355,990
教育研究経費支出	1,491,799
管理経費支出	775,326
借入金等利息支出	79,266
借入金等返済支出	248,480
施設関係支出	66,872
設備関係支出	91,966
資産運用支出	1,000,000
その他の支出	182,284
予備費	100,000
資金支出調整勘定	△ 138,719
次年度繰越支払資金	4,117,001
支出の部合計	11,370,266

消費収支予算書

（単位：千円）

消費収入の部	金額
学生生徒等納付金	5,878,945
手数料	68,150
寄付金	99,000
補助金	578,350
資産運用収入	80,753
資産売却差額	1,317
事業収入	225,288
雑収入	28,808
帰属収入合計	6,960,611
基本金組入額合計	△ 412,000
消費収入の部合計	6,548,611
消費支出の部	金額
人件費	3,410,140
教育研究経費	2,229,799
管理経費	850,326
借入金等利息	79,266
資産処分差額	13,000
徴収不能額	15,000
予備費	100,000
消費支出の部合計	6,697,531
当年度消費支出超過額	148,920
前年度繰越消費支出超過額	3,729,676
翌年度繰越消費支出超過額	3,878,596

Report

アセンブリーアワー講演会

あらゆるジャンルから今もっとも旬のゲストを招く、アセンブリーアワー講演会。今年度前期も著名なゲストが来学した。

5/15

千松信也さん (猟師)

運送会社に勤めながら、猟を営み暮らしている千松さん。猟師を始めたきっかけや、銃を使わない「ワナ猟」、動物との知恵比べ、自然や動物との関わり方を講演した。「あなたにとって猟師は趣味か仕事か、という質問をよくされる。でも、僕にとっては生活の一部。自然なこと」と話し、人



間が動物や自然について果たすべき責任について、自身の考えを熱く語った。

6/4

横浜聡子さん (映画監督)

横浜監督の最新作『ウルトラミラクルラブストーリー』で音楽を担当した大友良英さんをゲストに迎え、最新作の話を中心に横浜さ



んのものでつくりの方法に迫った。

横浜さんは、現場でどんどんアレンジして映画をつくっていくことや、役者に演技経験の人を起用したエピソードなどを話し、「偶然に期待しているんです。ワクワクしながらつくりたい」と語った。

6/12

マーティ・フリードマンさん (ギタリスト)

『“昨日は歴史 明日は謎” じゃん!』をテーマに、元メガデスのマーティさんが講演。ニューアルバム「TOKYO JUKEBOX」をBGMに、J-POPのすばらしさ、自分が好きでやっていることを信じていくことの大切さなど、自身の経験を交えながら語った。

学生へのアドバイスを聞かれたマーティさんは、「大学へ入ったことが成功への第一歩。しつこいと思われるくらいに人や大学に食らいついて、大学の良さをもらおう」と熱いメッセージを送った。



そのほか前期には、映画『スワロウテイル』『ザ・マジックアワー』などの美術監督を務めた種田陽平氏、アーティストの大岩オスカル氏と日系ブラジル研究者の細川周平氏も講演した。

Report

客員教授による特別講義

本学は、実に様々な業界から客員教授を迎えている。その特別授業の一部をご紹介します。

4/16

安井清先生

デザイン学部客員教授



この日のテーマは、伝統建築の技法「組み木」について。小田原城の専属大工・芹澤氏をゲストに迎え、風光館前の広場にて、さまざまな組み木に触れながらの授業となった。「昔ながらの技が今日まで残っている理由が必ずある。その理由を考えることが大切」と芹澤氏。わざと隙間をあけて組み、耐震をはかる技術に、学生らは驚きの声をあげていた。

4/3

畠山直哉先生

芸術学部客員教授



写真家の畠山先生の就任を記念して、講演会を開催。「私の場合—芸術との出会い—」をテーマに、高校のときの体験談や大学の恩師に言われた言葉などを紹介しながら、自分がなぜ写真や芸術の世界へ進んだのか話が語られた。また、「呼びかけのあるものが、『作品』だ」としてと芸術を追求する学生らにメッセージを送った。

5/1

タナカカツキ先生 &

伊藤ガビン先生

デザイン学部客員教授

ジャンルの垣根を超えていろいろな活躍をされている両氏。様々な作品をスクリーンに映し出しながら、二人の出会いから作品（ガビン先生が送ったボエムをカツキ先生が映像で表現した作品など）にまつわるエピソードも披露。学生らを笑わせつつ、クリエイター同士の交流や、何にお金をかけるかといった、クリエイターとしての姿勢や心構えなどが熱く語られた。



6/11

呉智英先生

マンガ学部客員教授

マンガ学部の1年生を対象にした「マンガ史概論」の授業のゲストとして登壇。坪内逍遙の『小説神髓』、本居宣長の『あしわけをぶね』を教材に、大学でマンガを学ぶ理由について熱い講義が繰り広げられた。



[2009年度 客員教授一覧]

●芸術学部 北川フラム(アートディレクター)、金子 潤(陶芸作家)、畠山直哉(写真家) ●デザイン学部 浅葉克己(アートディレクター)、伊藤ガビン(編集者・ゲームデザイナー)、黒須美彦(クリエイティブディレクター)、山本容子(銅版画家)、タナカカツキ(マンガ家・映像作家)、黒川雅之(建築家・プロダクトデザイナー)、永島謙二(BMW AGカーデザイナー)、マイケル・ロットンディ(建築家)、安井 清(建築家) ●マンガ学部 村上もとか(マンガ家)、石岡正人(映画監督)、富野由悠季(アニメーション監督)、りんたろう(アニメーション監督)、由利耕一(編集者)、呉 智英(マンガ批評家)、中野晴行(編集者・ライター) ●人文学部 池田浩士(ドイツ文学者)、日高敏隆(動物行動学者)

人文学部1999年卒業 歌人 **今橋 愛**さん

「水菜買いにきた」
三時間とばしてこのへやに
みずな
かいに。

——2002年に第1回北溟短歌賞を受賞し、歌壇にデビューした今橋愛さん。選考委員の穂村弘さんが「水の上に花びらを散らしたような言葉の危うさと完璧さ」と評した彼女の歌は、『O脚の膝』として一冊に編まれ、刊行されている。

「映画なら120分くらいかけて観る人を説得させるものですが、短歌はそれが一瞬。そこが短歌の魅力ですね」

高校時代から詩を書くことが好きだったという今橋さんと短歌の出会いは、精華での授業だった。

「歌人である岡井隆先生の講義で、はじめて、面白い歌に触れたんです。短歌の創作を始めたのは、卒業後。当時、流行していた短歌から感じた“わかりやすい女性観”にひっかかりを覚えたことがきっかけで……。それもまた精華で学んだことが影響しているのかもしれない。いま思い返すと、精華では生きていく上で知っておいたほうが良いことを、たくさん学んだ気がします」

北溟賞を受賞した後は、さまざまな媒体で作品を発表。最近では、岡井隆さんの『未来短歌会』に入会し積極的に活動する一方、詩人・和合亮一さんを中心とした会に参加したり、歌人・雪舟えまさんと一緒に立ち上げた同人誌『Snel』では、表現の幅を広げ、小説にも挑戦している。

「たとえば、相手にすぐ届いてしまうメールより、伝書鳩を飛ばすことができたらどんなにすてきだろう、って思うんです。そうすると、さらに妄想が膨らむから。私にとって短歌は、それと似ていますね」
空を舞う鳩に想像し、祈り



を込めるように。最後に、近作のなかで今橋さんが気に入っているという歌を紹介したい。

あえなくなる日がきても
しぬるまでそばにおいておかれる
ひがさがほしい

活躍する卒業生

様々な業界で活躍する卒業生を紹介します

芸術研究科 立体造形専攻2006年卒 造形作家 **花岡伸宏**さん

品を作りたいんです。それを見て違和感を感じてほしい」。

ご飯をモチーフにしだしたのは4年前。こぼれたり、くっついたりする素材としての特性、ほったたについていたり、落ちている場面の滑稽さ、日本人に最もなじみ深い存在、全てが魅力的だった。組み合わせるのはネットで見つけたものや、見かけたパブリックアートからヒントを得た像など。コラージュに近い感覚でご飯と組み合わせているのだという。

ご飯の作品以外にも、高速回転する工事現場の便所の看板を日本画調の猿が見て怒っている絵画作品など、花岡さんの作品はユーモラスなもの

が多い。その独特の感性は精華での人との関わりの中で磨かれていった。「はだか部」と称して裏山にこもって裸で木に登る活動をしている人たちとか、変ですけど、強い意思を持って動いている人が多く、すごく刺激を受けました。他学部や違う分野の人と関わることで、視野を広げてもらったのも大きかったですね。制作拠点である右京区のアトリエも、作家活動への道を後押ししてくれた大学の先輩2人と共有している。「柔軟な発想も、現在の制作活動も一人ではできなかった」と振り返る。

個展『ずれおちた左肩は飯に刺さる』が終わったばかり

の花岡さんに今後の活動を聞いてみた。「なぜご飯なのか。自分を探るためにも、ご飯モチーフは続けていきたいですね。いつか作家1本でご飯を食べられるようになれば」。受賞という形でその目標に近づいた花岡さん。これからの作品にも期待したい。



審査員に馬鹿馬鹿しいと言わしめた「ずれ落ちた背中は飯に突き刺さる」
350×210×120cm



娘を背負った母親の木像。その背中が切りとられ、背負っている娘もろとも、後方の山盛りのご飯の中に転落している…。『ずれ落ちた背中は飯に突き刺さる』。見たままのタイトルこの奇妙な作品で、花岡伸宏さんは第12回岡本太郎現代芸術賞の特別賞を受賞した。「組み合わせで生まれる変なもの、社会に還元されない全く意味のない作

Topics **1**
吉本隆明氏のDVDを無料進呈

40周年記念事業として、戦後を代表する思想家で詩人の吉本隆明氏のインタビュー映像を収録したDVDを無料（送料のみ個人負担）で進呈します。笠原芳光・元本学学長（宗教思想家）を聞き手に、自らの個人史を軸としながら、人生論や若者へのメッセージを語った内容です。

配布数は1万部。一般の方に5000部、大学関係者（在学生・在学生保護者・卒業生・教職員など）に5000部としています。ご希望の方は、本学Webサイトよりお申込ください。電話・FAXからはお申込できません。なお、先着順で所定数に達次第、締め切らせていただきます。詳細は本学企画課 創立40周年記念事業 吉本隆明DVD係（075-702-5201）まで。

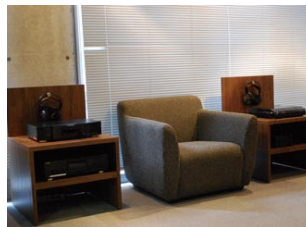


<http://www.kyoto-seika.ac.jp/1968+40/yoshimoto>

Topics **2**
メディアセンターがリニューアル

情報館の1階にあるメディアセンターがリニューアルしました。視聴覚スペースが一新。DVD・VHS・LDが見られるソファスペースのほか、音楽試聴専用ブースではCDやテ-

プ、LPも聴くことができます。どなたにも貸し出しておりますので、ぜひご利用ください。



Topics **3**
ギャラリーフロールが再開

本館整備計画に伴う事務所使用のため、2008年度休館しておりましたギャラリーフロールが7月中旬に再オープンいたします。ギャラリー復旧工事を機に一部展示室レイアウトを変更し、新たに1階に壁面高4mの展示室2室を設けました。

これに伴い「申請展」(在学生、卒業生、教職員の企画〈自作も含む〉による展覧会)の使用規定も一部変更しましたので、詳しくはフロールのホームページでご確認いただくか、下記までお問合せください。

<http://www.kyoto-seika.ac.jp/fleur>
 情報館情報館課フロール担当：075-702-5291

Topics **4**
セイカブックマークが完成

大学ブログ「seika-sekai」をはじめ、各コースのブログが活発に更新されています。それら各サイトの更新がひとつのページで確認できる「セイカ・ブックマーク」というページを作成しました。大学TOPページからぜひご覧ください。

時間や天気によって画面が変化したり、クジャクが動き回ったり何度見ても飽きさせない工夫がいっぱいです。

また、すぐれたWEBデザインのページとして多くのサイトで注目を集めています。



<http://www.kyoto-seika.ac.jp/bookmark/>

**施設整備および教育研究事業充実に
 関する募金についてのご願い**

施設の充実、教育研究の発展にかかる経費のご寄付ご協力をお願いいたします。寄付金は一ロ一万円からとなっております。詳細につきましては「募金要項」をお取り寄せください。

この寄付金につきましては、文部科学省から「特定公益増進法人であることの証明書」の交付を受けていますので、所得から税金控除を受けることができます。

募金に関するお問合わせや募金要項のお取り寄せは、京都精華大学企画室（075-702-5201）までお願いいたします。

Kino Press No.48
 K yoto Seika University

木野通信 第48号
 2009年7月15日発行

京都精華大学入試広報部広報課
 〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
 TEL 075-702-5197

<http://www.kyoto-seika.ac.jp>

「木野通信」送付先住所の変更は企画室・木野会事務局 kinokai@kyoto-seika.ac.jp までご連絡ください。